

よみとりとよむ

ハイレベル 12 「夏の王さま」よみとりとよむ

今回のおはなし
とんぼ池には、いろいろなとんぼがいます。ぼくが、ギンヤンマを見つけると、ひなこはわらって、くるくる回りました。

そのとき、ふっとあたりがくらくなくなつた。見上げると、高い空に、ひこうきみたいなたてつかい、とんぼが、うかんでいた。

(王さまだ！ オニヤンマだ！)
ぼくが、心の中、さげんだとき、

「王さまだ！ オニヤンマ！」
同じ、ことを、ひなこが、言った。

ぼくは、あみを、つかんで、とんだ。

ぶん、と、ヘリコプターのような音がうでに、つたわり、いっしゅん、体が、うかんだ気がした。

あみの、中に、王さまが、いた。

みどり色の、大きな目を、びかびか、光らせ、

ぼくを、見て、いた。

とらみたに、りっぱな、かたを、いからせて、黒い、足を、がさつと、一回、うごかした。

「……大きいね。鳥みたいに、大きいね。」

ひとり言みたいに、ひなこが、言った。「きれいだねえ。だからものみたいに、りっぱだね。」



おうちのかたへ、おはなしのあらすじを、描かれた事柄から、事柄の様子を想像する。

1 上の、文、しやうを、声、出して、読みましよう。

2 は、ぼくが、心、中、で、さげんだことばです。どのように、読むと、よいか、考へて、声、出して、読みましよう。

3 と、ありますが、オニヤンマを、つかまえた、しゅんかん、ぼくは、どのように、かんじましたか。

いっしゅん、体がうかんだ気がした。

4 ひなこは、つかまえた、オニヤンマの、大きさを、どのように、かんじましたか。

鳥みたいに大きい。

5 ぼくや、ひなこが、見た、オニヤンマの、絵を、紙に、かいて、みましよう。

月 日

出典：黒川和子「おはなしのあそび」小学館「ポロ」刊

はげましスタンプ

今回の学習のねらい

- 登場人物の心情を考へて読む。
描写された事柄から事柄の様子を想像する。

支援のポイント

- 2 「どんな気持ちで読むといいかな？」あるいは「とんぼの王さまを見つけたとき、〇〇ちゃんならどんな気持ちになるかな。」などと語りかけ、「ひこうきみたいなたてつかい、とんぼ」を見つけた感動を表現するの、にふさわしい読み方を考へてもらいましよう。「心の中で」叫んだという記述から、声を殺すように読んでもよいでしょう。
4 ひなこの会話文を見つけて感動を読み取ることがポイントです。「ひこうきみたい」「たからものみたい」と答えた場合は、「ひなこが思ったことが書いてあるところは、ほかにあるよ。」「大きさはどう感じているかな。」と問いかけましよう。
5 問題文の描写から「王さま」であるオニヤンマの姿を絵に描いてみる取り組みです。描く前に「お話では、オニヤンマのことがどんなふう書いてあるかな？」などと問いかけて、オニヤンマの特徴をとらえさせましよう。お手元に紙を用意してから取り組んでください。

ほめ方のポイント

- 2 音読の学習では、すすんで工夫して読もうとする態度をまず評価してあげてください。ここでは「王さま」を見つけた喜び、あるいは驚きなどを声で表現することになりますが、「ぼく」の気持ちを、お子さまなりに工夫して読んでいると認められれば、「ぼく」の気持ちを考へて、上手に読めたね。王さまを見つけた『ぼく』の気持ちがよくわかる読み方だったよ。といった言葉でほめてあげましよう。
5 文章から得たイメージを絵で表すことが目的なので、リアルさにこだわらなくてもいいです。問題文には色の記述がありますが、どこが何色なのか、がわかっていようなら、単色でもかまいません。
また、例えば「とらみたにりっぱな、かた」を描くために肩を極端に大きくしたり、「たからものみたいに」星を散りばめたりするとうように、子どもは印象に残ったことを強調して描く傾向があります。どうしてそのような絵にしたのか、理由を説明してもらったうえで、お子さま自身のイメージを絵で表現できたことを大いにほめてあげましよう。